

小名浜港東港地区臨港道路点検マニュアル（案）策定にあたり

人間は生まれるときから、一人歩きするまで多くのサポートが必要です。橋梁も同じだと改めて感じます。使い始める時の注意点や状況の変化を適切にサポートしてマニュアル化しておけば壮年になるまで健全な機能の確保とリスク対応が可能となるからです。

本点検マニュアル（案）は、主として目視点検での留意点や工夫に重点を置き、設計施工の段階でその構造の特殊性等の議論を行い、実際に施設管理を行う方に渡す試みです。橋梁というハードに点検マニュアルというソフトを加えて引き渡す取組は、これからの公共施設（特に大規模プロジェクト）を整備していく上で非常に良い見本となると考えています。

「専門家でなくても使えるマニュアル」がコンセプトの一つです。橋梁維持に関する技術者の不足や経験不足は明らかであるため、設計供用期間100年にわたり、橋梁の専門家が管理をするとは限らないからです。そのため、マニュアルそのものが難しいと次世代に引き継がれないことも十分考えられます。しっかり使われるマニュアルにしなければ意味が無く、その上で、判断や対応に困ったら、専門家に相談できる地域システム構築の必要性も同時に議論されました。

マニュアルは生き物であり、常に改善の繰り返しが行われるべきです。なるべく多くの人に愛着を持って本マニュアル（案）を通して小名浜港東港地区の橋梁を見てもらい、不具合等を見つけた際には、連絡してもらおう体制を作ることが重要です。そして、本橋梁や本マニュアル（案）で多くの方が維持管理技術を学ぶ機会が生まれれば幸いです。

平成28年3月

小名浜港東港地区臨港道路維持管理技術検討委員会 委員長

（早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 社会環境工学科 教授）

清宮 理